

工藤篤子音楽ミニストリースメールマガジン第3号

2002年1月17日

●新しいユーロ ●FGEC ●L氏のこと



こんにちは、工藤篤子です。

寒い冬、みなさんお元気でいらっしゃいますか。

ハンブルグへ戻ってから12日ほど経ちました。

日本であれだけハードスケジュールだったのに、疲れは思ったほど出ませんでした。感謝！

写真：ハンブルク音楽堂コンサート

近況報告

こちらでは、日本での次回のコンサート準備に取りかかっています。まず、今やっと仕上げたのが、1996年のリサイタル・ライブ録音CDのジャケット作成。訳詞から挨拶文、ジャケットの構成など、かなりの時間を要しました。最近では歌うのがほとんど賛美の曲でしたから、歌詞を訳すにしても、心がいつも主を賛美していました。久しぶりに一般のクラシック歌曲の訳をして、「ウーン、これが神を中心としない人の感情のひだなのだなあ・・・」と、ちょっと寂しくなっていました。時々一般のコンサートもして音楽界の人々にも伝道してゆきたいと思っています。3月1日には、札幌キタラホールで市主催リサイタルをしますが、賛美をするのとは、やはり心の状態が違います。そのとき、世にあって戦っているビジネスマン・クリスチャンのことを思い、再び勇気づけられました。

「機会を十分に生かして用いなさい。悪い時代だからです。」（エペソ人の手紙5：16）

新しいユーロ

1月2日、日本から飛行機でアムステルダムに入った待ち時間に、まずユーロに換金しました。これでドイツに帰ってもスペインに行っても換金しなくてよいのだ、と思ったら急にヨーロッパがひとつになったような気がしました。どこの国も問題なく速やかにユーロに切り替わったようです。

ただし、ドイツ人はまだ全てをマルクで計算しています。商品の値段もかきりマルクからユーロに換金されて、お陰で端数だらけです。私のレッスン料も、ドイツ人は、50マルクだったのを25ユーロ53セントと、きちんと換金して端数まで払ってくれます。きっと来年になれば、端数も切り上がってなめらかな数字になってゆくでしょう。

ハンブルグの母教会 FGEC

昨日、6名の新しい来客がありました。その方たちは、ピア配りを通して、私たちの教会の存在を知った人たちでした。二人で一緒に来たご婦人たち以外は別個に来た人たちです。こうやって、「ここが教会ですよ！」と地域の人々にお見せできるのは、やっと教会を持つことができた私たちにとって、新鮮な喜びです。ここに教会が建ちますように、と長年祈っておられた国教会の老夫妻のことを前回書きましたよね。今日は、主が確かに私たちの教会を祝福してくださっている、と実感しました。どうぞ、この地域の人々の救いのためにお祈り下さい。

L氏のこと

前にも書いた、ユダヤ人L氏ご夫妻に会いました。彼の事業は、不況のあおりを受けて、昨年8月からかなり大変になっていました。そのとき、私が、「でも景気がどうであれ、私たちの生活は神様次第なのよね。」と言ったらしいのです。それを聞いた奥さんが、「ああそうか、じゃあ私たちの事業も神様次第なのか。」と思ったら、暮れに逆転上昇して、今までの最高売り上げを記録した、というのです。

彼らの会社では今、パレスチナ人をふたり雇っています。そのためにL氏は知り合いのユダヤ人からけんけんごうごう喧々囂々の非難を浴びているそうですが、「いや、こういう時だからこそ、われわれ庶民の側から平和を築き上げてゆかなければならないのだ！」と確固として答えているそうです。この話しを聞いて私は感動しました。このご夫妻の救いのために、引き続きお祈りください。

ピアニストのTさん

週に一度、日本人のピアニストTさんがうちに来て、私の練習伴奏をしてくれています。

そのほかKさん、Sさん、Yさんの3人の日本人の生徒が歌を習いに来ています。歌の生徒には宗教曲を通して信仰の話しをしやすく、すでにSさんは三浦綾子の本を読みまくり、信仰についてまじめに考えています。けれどもピアニストのTさんは、「私は信仰は持っていませんから、」といつも毅然としていました。ところが、ところがです！日本から戻って、最初の音合わせの日、普段冷静な彼女が興奮していました。部屋に入るなり、私の日本での伝道コンサートのビデオを観た(実は私はこのビデオをまだ観ていません！)、というのです。それで、私がイエス様を心から信じてひとことひとことを話し、歌っているのが分かった、感動した、信仰を持つ持たないは別として、聖書をまず学んでみたい、と言うのです。それで、今度私が日本から帰ってきた5月から5ヶ月間、2週間おきに我が家での聖書の学びを提案しました。そうしたら、Kさん、Sさんにも声をかけてみる、と言うのです。

まだちょっと先の話しですが、みなさん、どうぞこの聖書の学びが実現し、祝福されますようお祈りください。願わくば、Yさんも参加に導かれますように。そして4人共(K、S、T、Yさん)、一日も早くイエス様を信じますように。

最近感動したこと

12月24日、軽井沢で「ヤベツの祈り」という本をいただきました。これは、私がある日、エペソ人への手紙の1章3節を読んで確信した、「神はキリストにおいて、天にあるすべての霊的祝福をもって私たちに祝福してくださいました。」という事実を、さらに具象化するような内容で、食い入るように一気に読みました。悲しみのうちに生まれ、その名の通り、ヤベツと名付けられた彼が祈った祈りです。

「私を大いに祝福し、私の地境を広げてくださいますように。御手が私とともにあり、わざわざから遠ざけて私が苦しむことのないようにしてくださいますように。」そこで神は彼の願ったことをかなえられた。(第一歴代誌 4:10)

神は彼の願ったことをかなえられた。それはヤベツが神に全く信頼したからです。神が彼の人生の主であり、その神は、彼を祝福して下さるお方であることを知っていたからです。

今日、教会の友人マーシーが目を輝かせてこう言いました。「ATSUKO、最近カウンセリングをしていて分かったの。一番大切なことは、主に愛されているとか、すべて受け入れられているとか、自分のアイデンティティーを知るとか、その次元のことじゃなくて、イエス様がその人の全人生の主になることなのよね。」

まだまだ書きたいことがあるのですが、まずは「ヤベツの祈り」、皆さんにもお勧めいたします。

今日は長くなってしまっておめんなさい。でも皆さんにお分かちしたいことがありすぎて、これでもかなり省略したのです。

またハンブルグから近況報告させていただきますね。

今年もミニストリーズの働きのためにお祈りお支え下さい。

2002年が、皆さんにとって祝福に満ちた一年でありますように。

工藤篤子

【事務局からのお知らせ】

1. 工藤篤子チャリティーコンサート

日時 4月8日(月) 午後7時開演

場所 カトリック玉造教会大聖堂

内容 スペイン歌曲とクラシック音楽

入場料 3千円 *詳細は後日連絡します。